

2023年5月7日

礼 拜

聖書

創世記30章25～43節

30:25 ラケルがヨセフを産んだころ、ヤコブはラバンに言った。「私を去らせて、故郷の地へ帰らせてください。
30:26 妻たちや子どもたちを私に下さい。彼女たちのために私はあなたに仕えてきました。行かせてください。
あなたに仕えた私の働きは、あなたがよくご存じなのですから。」30:27 ラバンは彼に言った。「私の願いをあなたがかなえてくれるなら——。あなたのおかげで【主】が私を祝福してくださったことを、私は占いで知っている。」

30:28 さらに言った。「あなたの報酬をはっきりと申し出てくれ。私はそれを払おう。」

30:29 ヤコブは彼に言った。「私がどのようにあなたに仕え、また、あなたの家畜が私のもとでどのようであったかは、あなた自身がよくご存じです。」

30:30 私が来る前は、あなたの財産はわずかでしたが、増えて多くなりました。私の行く先々で【主】があなたを祝福されたからです。いったい、いつになったら私は自分の家を持てるのですか。」

30:31 彼は言った。「あなたに何をあげようか。」ヤコブは言った。「何も下さるには及びません。もし私に次のことをしてくださるなら、私は再びあなたの群れを飼って守りましょう。30:32 私は今日、あなたの群れをみな見て回りましょう。その中から、ぶち毛と斑毛の羊をすべて、子羊の中では黒毛のものをすべて、やぎの中では斑毛とぶち毛のものを取り分けて、それらを私の報酬にしてください。

30:33 後であなたが私の報酬を見に来られたとき、私の正しさが証明されるでしょう。やぎの中に、ぶち毛や斑毛でないものや、子羊の中に、黒毛でないものがあるれば、それはすべて、私が盗んだことになります。」

30:34 するとラバンは言った。「よろしい。あなたの言うとおりになればよいが。」

30:35 ラバンはその日、縞毛と斑毛の雄やぎと、ぶち毛と斑毛の雌やぎのすべて、すなわち身に白いところのあるもののすべて、それに、黒毛の子羊のすべてを取りのけて、息子たちの手に渡した。30:36 そして、自分とヤコブの間に三日分の距離をおいた。ヤコブはラバンの残りの群れを飼った。

30:37 ヤコブは、ポプラや、アーモンドや、すずかけの木の若枝を取り、それらの白い筋の皮を剥いで、若枝の白いところをむき出しにし、

30:38 皮を剥いだ枝を、群れが水を飲みに来る水溜めの水ぶねの中に、群れと差し向かいに置いた。それで群れのやぎたちは、水を飲みに来たとき、さかりがついた。30:39 こうして羊ややぎは枝の前で交尾し、縞毛、ぶち毛、斑毛のものを産んだ。

30:40 ヤコブは羊を分けて、その群れが、ラバンの群れの縞毛のものとすべての黒毛のものに、向かい合わせになるようにした。彼は自分の群れを別にまとめておき、ラバンの群れと一緒にしなかった。

30:41 また、強い群れにさかりがついたときに、ヤコブはいつも、あの枝を水ぶねの中に、群れの目の前になるように置き、枝のところで交尾させた。

30:42 しかし、弱い群れの中には、それを置かなかった。こうして、弱いものはラバンのものとなり、強いものはヤコブのものとなった。

30:43 このようにして、この人は大いに富み、多くの群れと、男女の奴隷、それにらくだとろばを持つようになった。

説教
祝福をもたらす器

創世記30章25節「ラケルがヨセフを産んだころ、ヤコブはラバンに言った。「私を去らせて、故郷の地へ帰らせてください。」やっと、ついにヤコブの愛する妻ラケルが身ごもって11番目の男子ヨセフを出産しました。ヤコブは7年はレアのため、もう7年はラケルのため、計14年、ラバンの下で報酬なしで働きました。羊が生まれても山羊が生まれても、トウモロコシが豊作でもその収穫はすべてラバンが所有し、ヤコブは奴隷扱いでした。

14年働いて、ラケルにヨセフが生まれたことから
故郷が恋しくなったのか帰らせてくださいと願っています。

ヤコブは叔父ラバンの所に来て愛するラケルと結婚
しようと思ったが、叔父ラバンはヤコブをだまして長
女レアを押しつけ、ヤコブはラケルも妻にするためもう
7年働かねばなりませんでした。

ヤコブに取ってこの14年は二人の妻の出産闘争の中で過ごした14年でした。

ヤコブはだまされてレアを妻に押しつけられました。ヤコブはそれを摂理と信じてレアを妻に迎え、ラケルをあきらめることも出来ましたが、当時の慣習で許されていた一夫多妻の道を取り、レア、ラケル、二人の妻を娶りました。その結果が、二人の妻の壮絶なバトルです。

この14年間、レアとラケルのことは沢山語られていますが、ヤコブのことは殆ど出て来ません。沈黙の14年です。叔父ラバンにだまされた結果、当時許されていた一夫多妻をヤコブは取ったもののその結果、ヤコブは家庭内の争いに巻き込まれ、苦難の14年、沈黙の中でひたすらに主の御心とあわれみを求める信仰の訓練の14年でした。この14年の訓練で祝福をもたらす器に変えられて行きました。

信仰の訓練の14年
ヤコブの祖父アブラハムにも沈黙の14年、
信仰の訓練の14年がありました。

アブラハム86歳の時、子供が生まれなかったため、妻サラの提案により、女奴隷ハガルによってイシュマエルが生まれます。この時代、この地域では、子が生まれない場合、女奴隷によって子孫を残すことは許されていました。

しかしこの世が許すことと神が許すこととは必ずしも一緒ではありません。アブラハムはこの世の習慣に従ってハガルの所に行来しました。世が許しても、主の許してくださることか、祈り求めなければならないこともあります。

女奴隷ハガルはイシュマエルを妊娠したときから、女性の本能か、高ぶった横柄な態度になり、不妊の妻サラとハガルの壮絶なバトルが始まり、この間、アブラハムは苦しみ、沈黙苦悩の14年を過ごします。主の御心を求め、悔い改め、祈りの14年。この14年を過ごした後、アブラハムは祝福され、サラはイサクを産んでいます。

ヤコブも主の訓練の14年を過ごして、ヨセフも与えられ、祝福の器と成長しています。ヤコブはラバンにだまされてレアを押しつけられましたので選択のしようがありません。あるとしたら、摂理と受け止めてレアを妻に迎え、ラケルをあきらめることですが、ヤコブは一夫多妻、この世の許す道を選びました。

この14年でヤコブは神様から訓練をされる貴重な年月でした。ヤコブは祝福をもたらす器に変えられて行きました。

ラバンもヤコブが祝福をもたらす器であることを認めています。

27節「あなたのおかげで主が私を祝福してくださったことを、私は占いで知っています。」

占いで知ることは余り健全ではありませんが、主がヤコブを用いていることをラバンも認めています。

祝福の器となるための訓練の14年。
実はラケルの産んだ子、ヨセフも
「14年の訓練の時」を経験しています。

ヤコブは待望の子ヨセフを偏愛しています。労働の免除、きれいな服を着せる、当然兄たちから憎まれます。ヨセフ17歳の時、兄たちに憎まれきらわれ、エジプトに奴隷として売り飛ばされています。誤解されて牢に入れられ、夢を解きます。エジプト王パロも夢を見て苦しみます。

ヨセフは牢から出されてエジプト王パロの夢の解説、夢解きをします。やがてエジプト全土を支配し、世界を飢饉から救うエジプトの総理大臣にまります。

その時のヨセフは30歳です。

17歳でエジプトに奴隷として来て、高ぶりを悔い改め、主を求め、主に取り扱われ、30歳までの14年の年月、訓練の時を過ごして、祝福の器とされています。

アブラハムの14年

ヤコブの14年

ヨセフの14年

7年の2倍、祝福の器ときよめられる、訓練される
取り扱われる期間かも知れません。

スピードを重んじる現代ではありますが、
成長するためにも時間と言う要素を大切にしたいと思
います。

ヤコブとラバン

いままでの14年はレアとラケルという姉妹の
出産バトル。

これからはヤコブとラバンと言う男性の駆け引きのバトル。
ヤコブはラバンに何度も何度も苦しめられています。

繰り返しますが、ヤコブが7年間働いて大好きなラケルを下さいと結婚を申し込みました。

この時ラバンは夜の暗闇を利用して、長女から嫁がせると言う言い分で、おそらくレアにラケルの服を着させてヤコブを欺いています。レアも父に反対していません。妹に対するライバル心があったのでしょうか。父

ラバンと共謀してヤコブを欺いています。

これはリベカと共謀して目の見えないイサクを欺いて祝福を奪った時と全く同じ欺き行為です。

ラバンに欺かれて、ヤコブは自分も同じ欺きの罪に協力した罪を示され、14年間、取り扱われて、成長して、祝福の器となっています。

ヤコブは祝福をもたらす器と変えられて行きました。ラバンも

「あなたのおかげで【主】が私を祝福してくださったことを、私は占いで知っている。」

ラバンは占い、偶像に仕える人でありながら主のおかげ、主の恵みで豊かになったと告白しています。

ヤコブ自身も

「30:30 私が来る前は、あなたの財産はわずかでしたが、増えて多くなりました。私の行く先々で【主】があなたを祝福されたからです。」

ヤコブが祝福の器となって、ヤコブを通して叔父ラバンが祝福されていると告白しています。

ラバンは

「私の願いをあなたがかなえてくれるなら——。あなたの
おかげで【主】が私を祝福してくださったことを、私は占
いで知っている。」

30:28 さらに言った。「あなたの報酬をはっきりと申し出
てくれ。私はそれを払おう。」

ラバンの願いはヤコブがここに滞在してくれること。
ヤコブを通して祝福を受けているから。
それで恐る恐るヤコブはラバンに報酬をお願いしています。

ラバンはヤコブを甥、親戚とは認めていません。

奴隷の一人と言う認識です。

奴隷が売られて来た時の身代金分を働いて自由になる時、妻や子供があってもそれらを置いて出て行かなければなりません。

ヤコブが父のところに帰ります、と言えば、妻子を残して一人で帰れとラバンは言うかも知れません。

ラバンはヤコブの存在のおかげで神からの祝福を受けたのでヤコブにはそばにいてほしい。

そこでヤコブはラバンが受け入れる最低の報酬、奴隷
の身分より少しましな最低の報酬をお願いします。

30:32 私は今日、あなたの群れをみな見て回りましょう。
その中から、ぶち毛と斑毛の羊をすべて、子羊の中
では黒毛のものをすべて、やぎの中では斑毛とぶち毛の
ものを取り分けて、それらを私の報酬にしてください。

当時 羊は白。山羊は黒が主流でした。
ぶち毛の羊、斑毛の羊、黒色の羊はまれでした。
山羊も、ぶち毛山羊、斑毛山羊、白い山羊は少数
でした。
そんな中でヤコブはラバンに不利と思える報酬を求め
ています。

30:32 私は今日、あなたの群れをみな見て回りましょう。その中から、ぶち毛と斑毛の羊をすべて、子羊の中では黒毛のものをすべて、やぎの中では斑毛とぶち毛のものを取り分けて、それらを私の報酬にしてください。

ヤコブは不利な条件を選びました。

これを聞いてラバンは

30:34 するとラバンは言った。「よろしい。あなたの言う
とおりになればよいが。」

とこのラバン有利な条件を承諾しています。

せこいらバンは

30:35 ラバンはその日、縞毛と斑毛の雄やぎと、ぶち毛と斑毛の雌やぎのすべて、すなわち身に白いところのあるもののすべて、それに、黒毛の子羊のすべてを取りのけて、息子たちの手に渡した。

30:36 そして、自分とヤコブの間に三日分の距離をおいた。ヤコブはラバンの残りの群れを飼った。

本来ヤコブの報酬となる

縞毛と斑毛の雄やぎ、ぶち毛と斑毛の雌やぎ、身に白いところのあるもののすべて、黒毛の子羊のすべてを取りのけて、息子たちの手に渡し、これらが紛れてヤコブの所に行かないように、3日の距離を置きました。縞毛、ぶち毛、まだら毛の羊が生まれないように、これらを遠い所に連れていきました。

ところが神様の恵み、又ヤコブの努力によって
本来少ないはずの

黒色の羊、縞毛、まだら毛、ぶち毛の羊、縞毛、まだら毛、ぶち毛の山羊がどんどん生まれて、ヤコブは大変な富に恵まれる様になりました。主はヤコブの祈りに答えて奇跡を起こしてくださいました。

30:43 このようにして、この人は大いに富み、多くの群れと、男女の奴隷、それにらくだとろばを持つようになった。

28:15 見よ。わたしはあなたとともにいて、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。」

ラバンからいじめられ、苦しめられても、
主は14年、ヤコブを守り、ヤコブを成長させ、
ベテルで約束されたみことばを
少しずつ実現してくださっています。

祈り。